

プロジェクト代表者	柴田雅朗（解剖学・准教授）
共同研究課題名	乳癌転移モデルにおけるリンパ節の転移前ニッチの形成機序
目的	末梢血やリンパ中に腫瘍細胞が循環していても、必ず転移が起こる訳ではなく、転移予定先臓器で癌細胞の受け入れが来ているかどうか（生着しやすい環境）に依存していると考えられる。つまり、転移前微小環境（転移前ニッチ）は転移を成立させるためには極めて重要な要因と考えられる。そこで、マウス乳癌転移モデルを用いて、リンパ節における転移前ニッチの形成機序について解明し、転移抑制治療の研究に発展させたいと考える。
内容	<p>癌細胞が分泌するエクソソームは転移に関与している可能性があり、以下の実験を共同研究し、転移前ニッチ形成に関わる分子を同定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 転移前と転移後における血液中に存在するエクソソームに内包されるマイクロ RNA の網羅的解析 ■ 転移前と転移後における血液中の循環型マイクロ RNA の網羅的解析 ■ 転移前における血液中の循環腫瘍細胞の有無の確認 ■ 転移前ニッチを形成したリンパ節組織の分子生物学的解析とそこに存在するエクソソーム内包のマイクロ RNA の網羅的解析 <p>乳癌組織と転移前リンパ節組織におけるエクソソームの電顕的観察</p>
学内共同研究者	近藤洋一（解剖学・教授）
	谷口高平（TR 部門・副部門長）
	伊藤裕子（解剖学・功労教授）
	濱岡仁美（解剖学・講師）
	二木杉子（解剖学・助教）
学外共同研究者	奥崎大介（大阪大学微生物病研究所・助教）
研究費	1,000,000 円